

WHO国際生活機能分類（ICF）を活用した自己実現概念の再構築の研究

－ ICFの構成要素（参加と活動など）に基づく自己実現概念の再構築－

ルーテル学院大学大学院付属包括的臨床死生学研究所 清重哲男 (01709)

キーワード：自己実現 ICF 活動と参加

1. 研究目的

2001年、WHO総会で採択した国際生活機能分類（ICF）の生活機能の構成要素である「参加と活動」は、これまでに研究してきた自己実現概念と共通する多くの要素を含んでいる。本研究は、自己実現概念に共通する要素項目をICF概念から組み入れ、新たな自己実現概念を再構築することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

ICFは、「全ての人の健康状態を全人的に把握するため」に開発された、「人が生きることの全体像」の共通言語なのである（上田 2010：34）。ICFの構成要素の「参加」と「活動」は、生活・人生場面の「利用者のより良い生活」を目標としている。介護保険法第1条の「自立した日常生活」（佐藤久夫 2006：49）や、「障害者基本法」の「障害者の自立及び社会参加の支援」及び、国連の「障害がある人の権利に関する条約」の定義は、ICFの考え方に基づいている（久田信行 2011 188）。先行研究は、国会図書館所蔵のNDL-OPAC（書誌一般表示）の「書誌検索」「雑誌記事索引」を使用し、「ICF」の先行研究を検索し、2012～2001年から合計312件を抽出した。更に、「生活」「生きる」「自己実現」「QOL」「成長」のキーワードから自己実現に重要と思われる文献を再抽出した。

3. 倫理的配慮

本研究は、個人情報に倫理的配慮をしています。本研究で引用・参考とした先行研究文献等は、著作権の保護に従い、研究目的以外に使用しないことを誓約します。

4. 研究結果

ICFの「参加と活動」の目的は「よりよい生活を送るため」に、「当人、家族及び専門職種を含めた関係者の間で、気づき、考えるための共通意識を得る」ことである（厚生労働省 2007：7）。ICFの評価は、「生活・人生場面への関わり」あるいは「生活経験」として評価される。ICFは、「人が生きる」ことを3つのレベル（生命レベル、生活レベル、人生レベル）で捉えて、人生を総合的に把握している。上田は、背景因子の「環境因子や個人因子を考えると、人間は本当に十人十色である。その人の個人を尊重しなければ、幸せにはなれない」と述べている（上田 2004：13）。ICFの「参加と活動」から自己実現概念に共通する要素項目群の一部を次に示した。

d660 他者への援助 assisting others 855d855 無報酬の仕事 non-remunerative employment
 d930 宗教とスピリチュアリティ religion and spirituality d110 注意して視ること
 watching d160 注意を集中すること focusing attention d177 意思決定 making decisions
 d3150 d6102 家具調度の整備 furnishing a place to live, d6200 買い物 shopping d630
 preparereng meal 調理、d7100 対人関係における敬意と思いやり respect and warmth.

佐藤は、「主体・主観」の精神の重要性が ICF では不明確（佐藤 2006: 49）だと述べ、大川は利用者の価値観の必要性（大川 2004:20）を

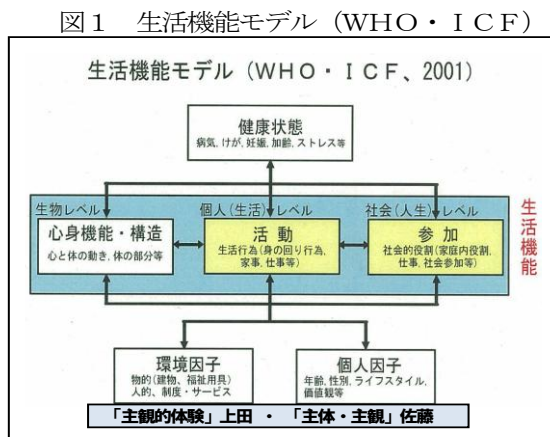
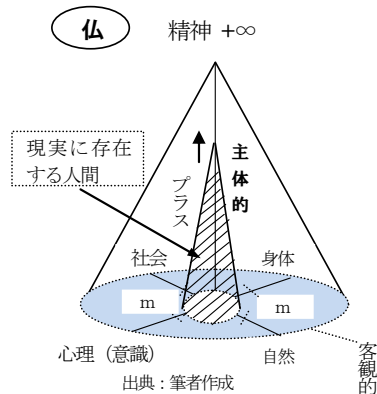


図3 精神と心理の関係構造



論じている。岸本は主体について、「主体的とは精神の方向に進化することだと」論じている（岸本 1985:11）。上田は、「介護やリハビリテーションの目的は、最高のQOL（人生の質の実現）である」と述べている（上田 2006:33）。ICF 概念を組み入れると、自己実

図2 プラスの側面とQOL及び自己実現の関係 (一部筆者が追加・改変)

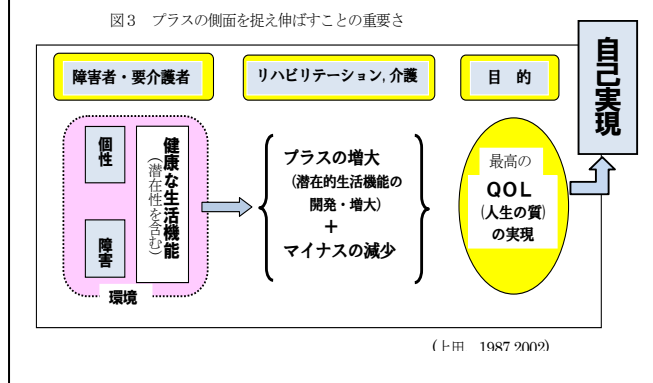
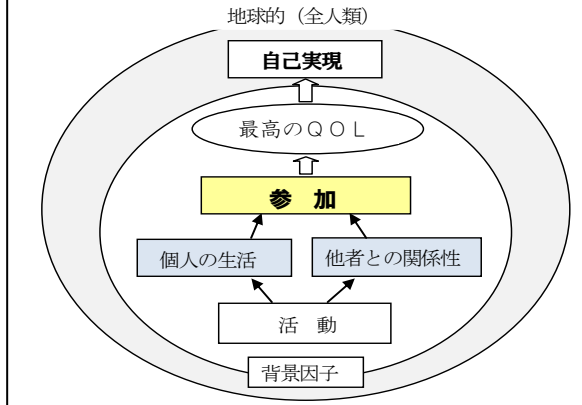


図4 ICFを活用した自己実現概念の構成図 (筆者作成)



現概念とは、個人の生活レベルの活動を活発に進め、「他者との関係性」を促進し、人間の在り方を目指して社会レベルの「参加」に取り組むことである（図4）。さらに、国家を越える地球的レベルに広めることで、最高の自己実現が開けることになる。

5. 考察

ICFは、本質的に実体概念である。（久田信行 2011:188）。ICFは、すべての人を「全人的に把握するため」に開発されたが、主体・主観に関する精神面に不十分さがある。自己実現は、主体的な要素が重要である。上田、佐藤、大川らは「全人的」理解に、「主体・主観」と価値の必要性を論じている。QOLの最高状態の自己実現は、意志的行為が進化し、全人類の生活と関係することにより成立するのである。